

【学校向け・地域向け】【協力・実践形態：長期・単発】【本会ホームページへの掲載：あり・なし】

人生の先輩 お年寄りから学ぼう!!

脇 美智子

【推進員認定期】第2期

【所属】自治会見守りネット(個人ボランティア、元中学校教員) 【活動エリア】県内西部を中心に県域

学習対象者	小学生（ 年生） 中学生 高高校生 住民 その他（ ）
内 容	障がい理解（車いす体験、アイマスク体験、当事者と交流、その他（ ）） 高齢者理解（高齢者疑似体験、当事者と交流、施設体験、その他（ ）） その他の理解（ ）
所用時間	単元時間：総合的な学習の時間 6 か月、 1回あたりの時数：2 時間
ねらい	3年生の「総合」の時間の中で施設体験 3日間が組まれているが、今年度は高齢者施設の体験に絞った。 施設体験はボランティアではなく、人生の先輩への敬意を持つことと現在のお年寄りの体への理解を目標とすることとした。

はじめに

1年次は「自分の住む町を知る」、2年次は「自分の住む町で働く」、3年次は「自分の住む町で学ぼう」というテーマで続けられてきた。

社協職員と話し合って、本年度は高齢者施設への体験ということに絞って体験させ高齢者理解に重点を置くこととした。

実践内容

- ・施設体験をボランティアと考えて、「やってあげる」という受け止め方をしないように気をつけた。
- ・まず、施設入所者の、今までに生きてきた人生の軌跡への理解と尊敬の念を持たせるために、各教科資料を中心に人生の背景を学ぶこととした。(社会・美術・音楽・体育・国語・家庭科等々)
- ・施設体験の時には、入所者からたくさんのこと学び話を聞く姿勢をとらせた。
- ・施設体験をさせていただくことへの感謝の気持ちをあらわすために草をとったり、掃除をしたりという施設内の作業に従事する時間を持たせた。
- ・最後に、レクリエーションの時間にお礼の気持ちを込めて歌を聞いてもらう。(音楽の時間に練習しておく)

ここがポイント！

- ・ 総合の時間は、学年教師全員が担当するので、それぞれの教科の特性を活かした指導ができるようとした。
- ・ お年寄りの人生の背景を学ぶために、60代、70代、80代、90代には入所者の10代の頃がどんな時代であったかを勉強する。
 - 歴史的にどんな事件があったか？
 - 将来どんな職業につきたかいと考えていたか？
 - どのような歌が流行っていたか？
 - 服装はどんなものを身につけていたか？
 - 食べ物はどのようなものを中心にしていたか？
 - 住居は今とどのように違っていたか？
 - 家族構成や、家族関係はどのような家が多かったか？
 - スポーツはどのようなものに人気があったか？
 - どんな遊びをしていたか？
 - 本はどのようなものを読んでいたか？
 - 等々
- ・ 中学生の施設体験は、お年寄りにとっても施設職員にとっても日常の生活を乱されることになることを理解させておく（事前に施設職員から体験に向けての講話をしてもらう）
- ・ 体験後感謝の思いを伝えるために、「ふるさと」「夏の思い出」を歌うこととして、音楽の時間に伴奏者を決め合唱の練習をする。

成果と課題

- ・ 施設体験と言うことはボランティアに行くという考え方をする教師・生徒がいるため、何のために福祉施設で体験をするのかを、社協職員と話し合い、事前学習の方法を作り上げた。
 - 今回は、お年寄りと話をたくさんする時間をとり、お年寄りの生きてきた背景を聞いてくるということを考えて、事前学習に時間をとった。
 - 施設との打ち合わせも各教師が手分けをして行った。
 - 施設職員（推進員）から施設での仕事の内容とお年寄りの生活について事前に講話をしてもらった。
- ・ 体験後の生徒からは次のような報告があった。
 - 窓拭きをしていると「ありがとう」「ありがとう」と何回も言ってもらった。
 - 90代のおばあちゃんから「あなたね、今を大切にたいせつに生きて行くのよ」…この生徒は精神的にも不安定で欠席も多い生徒であっただけにこの言葉は本当にありがたいものだった。
 - 入浴介助の時に傍らでタオルを持って立っていたら「見世物じゃない」とお湯をかけられたという…生徒の感想は「でもそうだよね、私だって知らない人に見られたくないもの」
 - 紙おしめをジャージのズボンの上からはく体験を自分から手を挙げた男子生徒は、周りの仲間からはやされたけれど「いい経験だったと思う。今度田舎のおじいちゃんが来るので知っておきたかった。」